

## 公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 25 年度第 2 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成 25 年 10 月 11 日(金) 18:00~20:00

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、伊藤委員、和田委員、金子委員、中西委員、本村委員(Skype)

事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

### IV. 検討事項

#### 1. 情報リテラシー教育のガイドラインのアンケート結果について

- ・ 8月に加盟261法人にアンケートを実施し、119大学、14短期大学の合計133校の先生375名から意見があった。以下でアンケートの意見について検討を行った。
- ・ 1年間、現在のカリキュラムでは困難の意見があったが、4年間の対応で考えている。高い目標に努力してもらえ、理解してもらえることが必要。
- ・ カリキュラム、大学全体を考慮した意見と授業単位で考えた意見もある。
- ・ 高校の教育との接続が現実的に成り立たない。しかし、大学であるので高校の上に行く必要がある。
- ・ ガイドラインとしては全大学一律ではなく、大学によって違ってくるのではないかの意見があった。例えば、文系の目標、理系の目標など
- ・ 新入生のリテラシー教育の実態、リメディアル教育があるが、4年間積み上げていくモデルを考える必要がある。4年間で実施するカリキュラムの図が必要ではないか。
- ・ 到達目標3は自ら実施することは困難の意見があるが、高校の教科書ではここまで行っていることを提示する必要がある。
- ・ リテラシーの言葉の捉え方に相違がある。技能教育、学士力としてのリテラシーとして求められるもの。
- ・ どの分野でも必要だが、先生への啓発が課題ではないか。
- ・ 社会で情報通信の役割、効果的な役割にはどのようなことを考えるべきか、到達目標3、到達度3では、~の役割を考え、実現するにはどのような仕組みを考えられるかなどでどうか。仕組みを考えることができる程度でどうか。
- ・ 測定方法に具体的な記述を入れてはどうか。
- ・ リテラシーは情報の基礎で、リテラシーは1年の最初、導入時としか考えていない。2年移行は専門になっているのではないか。
- ・ 到達度を具体化してわかりやすい形を希望されているが、ある程度抽象化しておかないと大学によって合否の判定範囲が違ってくるのではないか。

#### 2. 意見から具体的な変更案の検討について

- ・ 実践事例などの例示資料を別冊などで一例を提示してはどうか。
- ・ リテラシー教育の考察の冒頭説明文の最後で大学ガバナンスの表現はわかりにくい意見もあり、「大学執行部」とした。
- ・ 到達目標1では、「光と影」の記述は抽象的などわかりにくい意見が多く、得失、利点な

どの案あったが、「有効性と問題点」とした。

- ・ 到達度1で、発信者の意図は完全には把握できないのではないかの意見から、「推測」を用いることにした。
- ・ 到達度2の説明で、～さまざまな危険や不安について、「・」を使用していたが「や」に変更した。
- ・ 到達目標2の到達度2の説明④で、「Webサイト」に変更した。
- ・ 到達度の測定方法は、①は、「利用目的」を特性の前に追加し、「その関係に整合性があるか評価する」を追加した。②を新規に「課題を提示し、目的に応じて情報を処理させる」を追加し、元の②を③とした。
- ・ 到達目標3では、モデル化シミュレーションに多様な意見があったため、到達度2の文頭に「仮説検証の手段として」を追加してはどうかの意見があった。
- ・ その他、追加検討項目として、4年間で段階的なピラミッド構成的な表現や図を提示することを含め、全体を意見をもとに見直しをすることにした。

#### V. 今後の予定について

- ・ 到達目標別に委員で分担して見直しをすることにした。また、4年間継続して学修することの例や説明の図などを追加することにした。検討はメーリングリストで行い、次回の委員会で取りまとめを行う。
- ・ 次回の分科会開催は1月または2月を予定している。